

## 「新型コロナウイルス感染症の5類移行後の対応等について」結果の概要と総括

2023年11月7日

公益社団法人日本介護福祉士会

会長 及川 ゆりこ

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後の各事業所や会員の対応等に関する現状を把握することを目的に、運営サポーターを対象とする調査を実施しましたのでご報告いたします。

### 【主な結果の概要】

#### 1. 介護施設の入所者と家族らの面会等において、何らかの制限が継続されている

介護施設の入所者と家族らの面会等について、「アクリルパーティションやガラス等で区切られ、直接の触れ合いはできていない」、「人数や時間等の制限を設けているが、直接の面会、触れ合い等は可能である」など何らかの制限があるとする回答が、介護施設職員の回答の大半を占めた。

在宅サービスにおいて、利用者の家族等が新型コロナウイルス感染症に感染した場合、家庭内でのゾーニングができるかどうか等によりサービス利用の休止を依頼しているとする回答が、在宅サービス職員の回答の過半を占めた。

5類感染症移行以前に比べ、制限の程度が緩和されていると推察されるが、利用者や利用者の家族等に対する制限が継続していることが確認された。

#### 2. 利用者や家族等に対する行動制限に対して、葛藤を抱えながら日々の介護に向き合っている

利用者や家族等に対する面会やサービス利用の休止などの行動制限に対して、感染予防の観点、家族等からの理解、各事業所における検討のプロセス等から、その必要性や内容に一定の理解を示していることが確認された。一方で、利用者の尊厳に対する意識、自立やQOLの維持・向上を図る介護実践への意識などによる、具体的な葛藤状況が示された。

#### 3. 勤務中のマスク着用のほか、職場以外においても何らかの行動制限・感染対策を行っている

介護現場の職員が、勤務中のマスク着用を推奨されたり、春～夏に実施された新型コロナワクチンの追加接種の対象者とされたりしたことについて、一定程度肯定的に受け止めている回答が多かった。

職場からの要請で、又は自発的に、職場以外での行動制限を行っているとする回答が7割程度を占め、「三つの密」の回避や「人と人との距離の確保」などの感染対策に努めていることが確認された。

#### 4. 行動制限や感染対策の必要性を認識する一方、ストレスや世間との温度差に悩んでいる

自由記述回答では、介護福祉士としての倫理観や利用者の生命や生活を守ることへの意識などから、行動制限や感染対策の必要性や内容を受け止めている方が多かった。ただし、こうした対応が長く継続していること、個人の選択が尊重されている世間との温度差などにより、ストレスの蓄積やモチベーションの低下を訴える意見も多く見られた。また、行動制限・感染対策の要請の在り様に対する疑問や、これまでの知見に基づいた主体的な判断による行動・対策を望む意見も複数あった。

### 【総括】

- ・ 新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行してからも、多くの制限や感染対策のための各事業所や会員の対応は、緩和された部分はあるものの継続している。
- ・ 利用者の生命やQOLを守ることと、尊厳に対する意識、よりよい介護を提供したいとする思いの間で多くの葛藤を抱え、ストレスの蓄積やモチベーションの低下を感じながらも、介護福祉の専門職として日々、介護に向き合い続けていることや、介護現場の奮闘をご理解いただきたい。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の対策を継続しながらも、いかに利用者本位の介護を提供し続けられるかについて検討を続けていきたい。